

地域おこし協力隊

丹波篠山市の地域振興や課題解決に取り組む地域おこし協力隊。丹波篠山市では平成26年度から、地域おこし協力隊を受け入れ、現在15人の隊員が活動しています。

今回は、地域活性化への起爆剤になることが期待されている協力隊の活動を紹介します。

問い合わせ

創造都市課 ☎552-5106
地域振興課 ☎552-5112



地域おこし協力隊とは、2009年度に国が開始した制度です。人口減少や高齢化などの課題を抱える地域において、都市部などの地域外から人材を受け入れ、地域活性化に取り組んでもらう仕組みです。その活動の幅は広く、地場産品の開発・PRなどさまざま。現在、全国で約8000人以上の協力隊員が活躍し、地域の可能性を探りながら日々奮闘しています。

丹波篠山市では独自の3タイプ「起業支援型（※1）」「半学半域型（※2）」「テーマ型」を採用しています。隊員は自身の起業や研究に取り組むとともに「まちづくり協議会」と連携して地域づくりに取り組まれています。



4月からは6人の地域おこし協力隊が丹波篠山市に移り住み、総勢15人の隊員が地域活性化のための取り組みを開始しています。

※1 地域資源を活用し、その成果を地域に還元することをめざした起業に挑戦します（週5日勤務・最大任期2年）。

※2 現役の大学生や大学院生対象。地域活動を行いながら、地域課題の解決や新たな価値創造につながる調査研究を行います（週3日勤務・最大任期3年）。

市内の協力隊員の推移

年度	隊員数(人)	年度	隊員数(人)
2014	4	2021	3
2016	3	2022	8
2017	4	2023	3
2018	1	2024	10
2019	4	2025	6
2020	2		



やまなか のぞむ
山中 望さん 2024年～（活動期間=2年間）
丹波篠山市地域おこし協力隊 大芋地区担当

木材の建材メーカーに就職していましたが、より森林に近い仕事をしたいと考えていました。ちょうどその時、篠山イノベーターズスクールで林業がテーマになっていることを知り受講。その後、丹波篠山で森林のことに関わりたいと思い、地域おこし協力隊に応募しました。6月15日に里山を活用したイベント「丹波篠山・山城ラン プレ大会」を大芋公民館を拠点に開催します。大会では、地図に示されたチェックポイントを制限時間内に巡り、獲得した得点で競います。このほか、通年でシタケづくりの体験など、里山体験プログラムを行っています。今後は、未利用山林の整備のため、自伐型林業に挑戦していきたいと思っています。より多くの方に、山に入っただき、何かを感じてほしいと思います。



まつばら
松原 みのりさん 2025年～（活動期間=2年間）
丹波篠山市地域おこし協力隊 城北地区担当

着任前は大阪で勤務していましたが、頑張りすぎて心に余裕がなくなる時もありました。その経験から、きっとこの忙しい世の中で頑張りすぎて疲れている方はたくさんいると思い、そんな方々がほっと心身が満たされる場所を作りたいと思いました。そして、セラピストとなり、丹波篠山の心地良さに魅了され、地域おこし協力隊に応募しました。私の活動はアーユルヴェーダ（※3）のオイルマッサージを提供できる民宿を作ることです。まず地域の方々にアーユルヴェーダを知ってもらうために体験会を実施したいです。また城北エリアの魅力を見つけ、SNSの発信も尽力します。地域の方にも地域の良さを再発見するきっかけになればうれしいです。地域の良さを知るためにも地域活動に積極的に参加し、地域の力になれることはどんどんやりたいです。

※3 インドの伝統医学で、健康に幸せに長生きする健康法を指導しています。日本ではリラクゼーションという立位置で、近年マッサージサロンが増加している。

関係者インタビュー

地域おこし協力隊に期待すること

後川地区で、2023年度に初めて地域おこし協力隊を受け入れました。アルベルトさんは誠実で人柄もよく、すぐに地域に溶け込まれていました。活動では、トルティーヤの製造を通じて、TVにも出演。後川地区の魅力を発信され、ポテンシャルが高い地区と言われました。隊員卒業後も後川地区に定住され、旧後川特産物加工組合の加工場を活用され、トルティーヤの製造販売のほか、後川の特産品づくりにも取り組まれています。今後も、何か新しいことが始まることを期待しています。

後川郷づくり協議会
おくら ひかる
事務局長 小倉 光



今回、城北地区に受け入れた松原さんは、アーユルヴェーダという、インドの伝統医学を用いて、心身の養生を目的とした民宿を作ろうとされています。地域の皆さんは、健康づくりには強い関心をお持ちなので、地域としても応援していきたいと考えています。また、松原さんには、地域の魅力をSNSを使用してどんどん発信し、私たちも知らない城北地区の良さを丹波篠山市内に広めてほしいと願っています。事業を成功させることは大変ですが、一緒に頑張っていきましょう。

玉水まちづくり協議会
おだち ふみまさ
会長 小立 記正



地域おこし協力隊の活動が見られます

地域おこし協力隊員の活動やイベントの情報をホームページやインスタグラムで見ることができます。ぜひ、ご覧ください。



令和8年度 地域おこし協力隊 受け入れまちづくり協議会を募集中

■受け入れ期間 : 令和8年4月1日から
※年度単位で委嘱。活動状況・実績等を考慮し、起業支援型は最長2年まで、半学半地域型は最長3年まで延長できます。

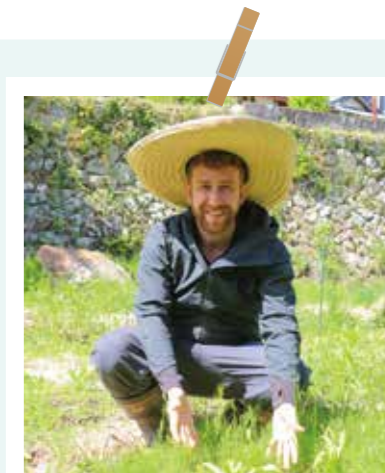
- 応募要件
- コーディネーターとともに協力隊員の活動を支援することができ、協力隊員とともに地域の課題解決に向けて取り組む意欲があること
 - 令和8年4月1日時点で、受け入れ中の協力隊員がいないこと。
 - 地区内に協力隊員の活動拠点（住居兼可）を準備できること
 - 協力隊員の活動や生活の相談に応じることができる者がいること

■応募方法 申込書に必要事項を記入の上、6月30日（月）までに、下記まで提出してください。

- 申し込み・問い合わせ
（一社）丹波篠山キャピタル 谷垣・河口
TEL・FAX506-2366
メール chiikiokoshi@tscapital.jp

地域おこし協力隊OBにインタビューしました

元協力隊として活動に従事し、任期後も丹波篠山市で活動されているウルタード・アルベルトさんと、石田歩夢さんにお話をうかがいました。



ウルタード・アルベルトさん
(後川地区)



9年前にメキシコから日本にやってきました。日本中を旅しているときに、スーパーでトルティーヤがないと言われ、本場メキシコのトルティーヤを作り、タコスを食べることにしました。美味しいと思ったのが、地域おこし協力隊に応募したきっかけです。トルティーヤとは、トウモロコシをすりつぶした粉を原料にする、メキシコの伝統的な薄焼きパン。肉や野菜を挟み、サルサソースをかけて食べるタコスに使われています。

丹波篠山市を選んだのは、自然豊かな環境があり、トウモロコシ栽培に適した条件がそろっていることが決め手となりました。私は2年間(2023年、2024年)、メキシコから輸入したトウモロコシを使用したトルティーヤの製造販売や、メキシコ産のトウモロコシの栽培、トルティーヤを多くの方に知ってもらうためタコス屋の店舗などに取り組みました。協力隊の活動は3月で終わりましたが、こうした活動に取り組めたのも、地域の皆さんの温かいサポートのおかげだと思います。今後は、地域の発展のために、旧後川特産物加工組合の加工場を活用し、日本の伝統食品や、メキシコの食品作りにも全力で取り組んでいきたいと思っています。



石田 歩夢さん
(古市地区)



2022年4月、神戸大学4年時に地域おこし協力隊に着任しました。教育に興味があり、大学で勉強するうち、教室の中で教えるよりも、外に出て体験しながら学ばせたいという思いがあり、自分がしたい教育ができるということと協力隊に飛び込み、古市地区の活性化に力を注ぎました。

活動は3年間で、テーマは「地域資源を生かした体験的な学びを子どもたちに届ける」。子どもたちに体験を通して生きる力を身に付けさせるために、月1回イベントを開催し、火おこし体験やピザ作り体験、ソーセージ作り、飯ごう炊さんなど、子どもたちがやりたいことを次々と企画しました。子どもたちのアウトドアスキルが上達してい

4月から、新任教諭として多紀小学校の教諭となりました。先生には以前からなりたいと思っていましたので、どんな子どもを育てたいのか、自分はどうな教育がしたいのかは、この3年間で固めることができました。今後は丹波篠山に住み続けようと思っていますので、これからも古市地区の力になっていければと思います。